

# キヤットストーリート

1 6 N 1 1 4 8	山田隆一郎
1 6 N 1 0 8 7	田中賢也
1 6 N 1 0 3 8	奥津明日香
1 6 N 1 0 1 6	井上涼花

## 江戸時代のキャットストリート



江戸時代には、キャットストリートというものはなく、左地図の中央を通る渋谷川（隠田川）という川でした。

この川がのちに東京オリンピック（1964年）の直前に暗渠化（渋谷川をが地表から見えない）されます。

この地図でもわかるように建築物自体が非常に少なく、広大な水田が広がっていることがわかります。

# 江戸時代の原宿周辺の様子

その当時のこの地域の農民達は、渋谷川で水車を使った精米、精粉などで生計を建てていたようです。  
葛飾北斎の富岳36景の「隠田の水車」という版画で当時のこの辺りの様子が判ります。



当時の渋谷川（隠田川）には水車がいくつも造られ、広大な田畑を潤していました。



## 1950年代（暗渠化前）のキャットストリート



左地図の中央を通るのが渋谷川です。こちらは東京オリンピック前に暗渠化されるのですが1950年代ということで暗渠化前になります。

江戸時代と比べるとだいぶ姿かたちは変わります。

## 暗渠化前の原宿周辺の様子

当時は現在の代々木公園にワシントンハイツという米軍の家族の家があり東京オリンピックのはじまる3年前に土地が返還されました。

1960年代初頭までの表参道には、ワシントンハイツで本国同様の暮らしをしているアメリカ人たちが、現在よりもかなり人通りの少ない、また欧米ふうの落ち着いた、ゆったりした街並みを、家族連れでのんびり歩く姿が日常的に見られたようです。アメリカ人向けに作られた日本離れしたお店が多かったようです。

その後渋谷川は暗渠化されて東京オリンピックも開催されました。

そして70年代半ばには竹下通りが誕生します。

またバブルの頃から表参道に有名ブランドがこぞってショップを出店し始めたことです。その影響でキャットストリートにもショップが増え始めました。



# 現在のキャットストリート





# 現在と暗渠前の違い



暗渠前と比べて渋谷区原宿の世帯数は非常に多くなり、この左の重ね合わせた地図でもわかるように世帯数は変化した。

またキャットストリート周辺に注目するとキャットストリートができるにあたって、道の数は増え路面に対する店舗数は非常に多くなった。

# 現在と暗渠前の違い



このように暗渠前に建てられたであろう住宅もあり道に対して背を向いている建築も存在する。

また原宿のキャットストリートの中にはもともと橋があった場所にある橋の柱が存在している。

今回、原宿について江戸時代から遡ることによってかつては水田が有名だったこと、アメリカのワシントンハイツがあって東京オリンピックも経て暗渠化されてこの形になったのを知り路面店の使われ方、キャットストリート周辺の道の使われ方を知れたと思います。

